



## 平成26年12月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成26年11月14日

上場会社名 株式会社カイオム・バイオサイエンス 上場取引所 東  
 コード番号 4583 URL <http://www.chiome.co.jp>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 藤原 正明  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役コーポレート本部シニアディレクター (氏名) 清田 圭一 TEL 03-6383-3746  
 四半期報告書提出予定日 平成26年11月14日 配当支払開始予定日 -  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・証券アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成26年12月期第2四半期の連結業績（平成26年4月1日～平成26年9月30日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年12月期第2四半期	158	—	△581	—	△582	—	△557	—
26年3月期第2四半期	—	—	—	—	—	—	—	—

(注) 包括利益 26年12月期第2四半期 △585百万円 (-%) 26年3月期第2四半期 -百万円 (-%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年12月期第2四半期	△27.55	—
26年3月期第2四半期	—	—

(注1) 当社は、平成26年3月期第3四半期より連結財務諸表を作成しているため、平成26年3月期第2四半期の実績及び増減率は記載しておりません。

(注2) 当第2四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期純損失金額であるため記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
26年12月期第2四半期	4,532	4,111	90.2	201.75
26年3月期	5,012	4,559	89.8	223.17

(参考) 自己資本 26年12月期第2四半期 4,090百万円 26年3月期 4,502百万円

(注) 当社は平成26年4月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行いました。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、1株当たり純資産を算定しております。

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
26年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
26年12月期	—	0.00	—	—	—
26年12月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 平成26年12月期の連結業績予想（平成26年4月1日～平成26年12月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	277	—	△907	—	△907	—	△891	—	△44.04

(注1) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

(注2) 平成26年12月期は決算期変更の経過期間となることから、通期については、9カ月間（平成26年4月1日～平成26年12月31日）の予想数値を記載しております。このため、通期の対前期増減率については記載しておりません。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	26年12月期2Q	20,276,000株	26年3月期	20,174,000株
② 期末自己株式数	26年12月期2Q	146株	26年3月期	146株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	26年12月期2Q	20,236,084株	26年3月期2Q	18,796,324株

(注) 当社は平成26年4月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行いました。前事業年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、期末発行済株式数及び期中平均株式数を算定しております。

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期連結財務諸表のレビュー手続は終了しております。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

1. 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は、様々な要因により異なる可能性があります。業績予想の前提条件及びその他関連する事項については、添付資料3ページ「業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。
2. 当社は、平成26年11月14日に機関投資家・証券アナリスト向けの決算説明会を開催する予定です。この説明会で配布する決算補足説明資料については、説明会当日に東証への開示に合わせて当社ホームページに掲載する予定です。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	3
3. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	6
四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### （1）経営成績に関する説明

前第3四半期連結会計期間より四半期連結財務諸表を作成しているため、業績数値の前年同四半期等との比較は行っておりません。

当社グループの当第2四半期連結累計期間における事業開発活動の状況としましては、主に中外製薬株式会社及び同社の海外子会社であるChugai Pharmabody Research Pte. Ltd.（以下、「中外製薬グループ」といいます）との契約に基づく研究開発活動を中心に、順調に事業を推進してまいりました。診断薬分野の大手企業である富士レビオ株式会社（以下、「富士レビオ」といいます）が、ADLib<sup>®</sup>システムから取得した抗体を使用した診断薬キットを販売しており、当社は売上高に応じたロイヤルティ収益を計上しております。また、当社の独自技術であるADLib<sup>®</sup>システムの研究を積極的に推進し、完全ヒトADLib<sup>®</sup>システムの多様性の向上や、リード抗体作製に関する研究開発活動を継続しました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間における売上高は158,058千円、営業損失は581,867千円、経常損失は582,379千円、四半期純損失は557,533千円となりました。

当第2四半期連結累計期間におけるセグメントの業績は次のとおりです。

#### ① 創薬アライアンス事業

中外製薬グループとの契約に基づく研究開発活動を継続しております。当期は、従来のADLib<sup>®</sup>ライブラリに加えて、複数の製薬企業に対し、来年度の検証的契約締結に向けた完全ヒトADLib<sup>®</sup>システムでの営業活動を開始しております。その他の営業活動として、BioPharm America 2014でのプレゼンテーション及び海外研究機関等への訪問を実施いたしました。今後も国内外のカンファレンスへの参加とプレゼンテーションを継続し、完全ヒトADLib<sup>®</sup>システムの紹介を中心に営業活動を実施する予定です。

連結子会社の株式会社リブテックは、平成23年11月に株式会社ヤクルト本社と締結したがん治療用抗体「LIV-2008」の独占オプション契約に基づき、各種非臨床試験を行っております。

以上の結果、当該事業における当第2四半期連結累計期間の売上高は142,756千円、セグメント利益（売上総利益）は88,266千円となりました。

#### ② リード抗体ライセンスアウト事業

当該事業につきましては、従来から実施している活動を継続しており、今後の売上の獲得を目指す所存であります。当第2四半期連結会計期間においては、横浜市立大学五嶋研、東京大学高橋研との共同研究契約を更新し、新規治療用抗体のステージアップ・導出に向けた研究活動を継続しております。また、新たに名古屋市立大学植村研及び横浜市立大学竹居研との共同研究を開始いたしました。

横浜市立大学と共同研究中の抗セマフォリン3A抗体は、導出に向けた魅力的なパッケージの構築のための、疾患モデル動物での薬効試験を実施しております。また、動物を用いた薬効試験についてはリブテックを含め、当社グループ内での試験の内製化を始めました。東京大学高橋研との膜タンパク質を標的とした創薬の共同研究では標的抗原に対する抗体を作製しておりますが、今後は得られた抗体の機能性の確認及び疾患モデルを用いた薬効評価を行っていく予定です。英国のBiotechnol Ltd.との共同研究では、お互いのユニークな技術を活かして順調に研究開発活動が進捗しており、今後、革新的なリード候補抗体を取得していく予定です。

当該事業につきましては、当第2四半期連結累計期間の売上高及び利益（又は損失）は発生しておりません。

#### ③ 基盤技術ライセンス事業

オリジナルADLib<sup>®</sup>システムの技術導出先である富士レビオでは、臨床検査・診断に用いる試薬の研究開発を行い、その成果として、欧州での“ビタミンD測定用の抗体を含む診断キット（Lumipulse<sup>®</sup> G25-OH Vitamin D Immunoreaction Cartridges）”の販売を平成25年12月より開始いたしました。これに伴い当社は売上高に応じたロイヤルティを受領いたしております。また、現在もADLib<sup>®</sup>システムを用いた新たな診断キット創出に向けた研究開発活動が継続されております。この他、技術ライセンスに興味を持つ国内外の複数企業との間で技術評価試験の実施及び技術ライセンススキームの交渉を行っております。

以上の結果、当該事業における当第2四半期連結累計期間の売上高は15,901千円、セグメント利益（売上総利益）は15,782千円となりました。

これら各セグメント事業の基盤となる技術プラットフォームの研究開発活動の状況につきましては、完全ヒトADLib<sup>®</sup>システムを構築し、現在は多様化レベルの向上、ライブラリの拡充を進めております。また、従来のライブラリを用いた困難抗原に対する特異的抗体の作製を進め、パイプラインの拡充や戦略抗体の創出活動を継続しております。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間における研究開発費は359,558千円となりました。なお、当社は創薬基盤技術であるADLib<sup>®</sup>システムを核として事業を展開しており、全ての保有資産が一体となってキャッシュ・フローを生成していることから、研究開発費を各報告セグメントへ配分しておりません。

(2) 財政状態に関する説明

① 財政状態の分析

(流動資産)

当第2四半期連結会計期間末における流動資産の残高は4,015,359千円（前連結会計年度末は4,514,672千円）となり、前連結会計年度末と比較して499,313千円減少しました。この主な要因は、コマーシャル・ペーパーの購入や販売費及び一般管理費並びに固定資産の取得による現金及び預金1,769,731千円の減少、コマーシャル・ペーパーの購入による有価証券1,299,634千円の増加等によるものであります。

(固定資産)

当第2四半期連結会計期間末における固定資産の残高は517,144千円（前連結会計年度末は498,131千円）となり、前連結会計年度末と比較して19,012千円増加しました。この主な要因は、研究機械の購入等による有形固定資産14,825千円の増加、ソフトウェアの購入等による無形固定資産4,301千円の増加等によるものであります。

(流動負債)

当第2四半期連結会計期間末における流動負債の残高は304,457千円（前連結会計年度末は347,064千円）となり、前連結会計年度末と比較して42,607千円減少しました。この主な要因は、固定資産購入代金の支払い等による未払金26,383千円の減少、借入金の返済による1年内返済予定の長期借入金20,812千円の減少等によるものであります。

(固定負債)

当第2四半期連結会計期間末における固定負債の残高は116,267千円（前連結会計年度末は106,595千円）となり、前連結会計年度末と比較して9,672千円増加しました。

(純資産)

当第2四半期連結会計期間末における純資産の残高は4,111,778千円（前連結会計年度末は4,559,143千円）となり、前連結会計年度末と比較して447,365千円減少しました。この主な要因は、四半期純損失による利益剰余金557,533千円の減少、新株予約権の行使に伴う資本金及び資本剰余金の増加145,796千円等によるものであります。

② キャッシュ・フローの状況の分析

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という）の残高は3,879,636千円となりました。各キャッシュ・フローの状況とその主な要因は以下のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間において営業活動により使用した資金は507,095千円となりました。主な内訳として、税金等調整前四半期純損失584,077千円に対し、資金を伴わない減価償却費39,795千円等を調整した資金の増加、また、収入要因として未収消費税等19,752千円の減少や支出要因として前受金19,579千円の減少等があります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間において投資活動により使用した資金は86,530千円となりました。これは、研究機器の取得やシステム導入等によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間において財務活動により取得した資金は122,219千円となりました。この内訳は、株式の発行による収入143,031千円や長期借入金の返済による支出20,812千円であります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成26年10月30日に公表した平成26年12月期の連結業績予想に変更はございません。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

該当事項はありません。

## 3. 四半期連結財務諸表

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成26年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,349,733	2,580,002
売掛金	46,806	30,847
有価証券	—	1,299,634
たな卸資産	57,059	47,857
未収消費税等	48,118	28,366
その他	12,953	28,650
流動資産合計	4,514,672	4,015,359
固定資産		
有形固定資産		
建物附属設備	181,093	181,093
減価償却累計額	△11,484	△17,541
建物附属設備（純額）	169,608	163,551
機械及び装置	480,919	506,031
減価償却累計額	△309,230	△316,405
機械及び装置（純額）	171,689	189,626
工具、器具及び備品	67,661	74,549
減価償却累計額	△37,997	△42,580
工具、器具及び備品（純額）	29,664	31,969
建設仮勘定	2,533	3,175
有形固定資産合計	373,495	388,321
無形固定資産		
特許権	7,785	7,313
ソフトウェア	4,109	18,479
ソフトウェア仮勘定	8,210	—
のれん	31,814	30,426
無形固定資産合計	51,919	56,220
投資その他の資産		
敷金及び保証金	72,716	72,602
投資その他の資産合計	72,716	72,602
固定資産合計	498,131	517,144
資産合計	5,012,804	4,532,503

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成26年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	26,072	37,745
1年内返済予定の長期借入金	20,812	—
未払金	115,167	88,784
未払費用	33,123	38,645
未払法人税等	14,903	9,264
前受金	68,224	48,644
前受収益	35,489	48,052
賞与引当金	12,780	15,905
預り金	20,317	17,414
その他	174	—
流動負債合計	347,064	304,457
固定負債		
長期未払費用	20,784	22,090
資産除去債務	47,935	48,189
長期前受収益	22,073	30,782
繰延税金負債	15,802	15,206
固定負債合計	106,595	116,267
負債合計	453,660	420,724
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	3,348,737	3,421,635
資本剰余金	3,338,737	3,411,635
利益剰余金	△2,184,884	△2,742,418
自己株式	△292	△292
株主資本合計	4,502,297	4,090,559
新株予約権	13,056	15,094
少数株主持分	43,790	6,124
純資産合計	4,559,143	4,111,778
負債純資産合計	5,012,804	4,532,503

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	当第2四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)
売上高	158,058
売上原価	54,609
売上総利益	103,448
販売費及び一般管理費	
研究開発費	359,558
その他	325,757
販売費及び一般管理費合計	685,316
営業損失(△)	△581,867
営業外収益	
受取利息	217
その他	976
営業外収益合計	1,194
営業外費用	
支払利息	72
株式交付費	1,130
その他	503
営業外費用合計	1,705
経常損失(△)	△582,379
特別損失	
固定資産除却損	1,697
特別損失合計	1,697
税金等調整前四半期純損失(△)	△584,077
法人税、住民税及び事業税	2,117
法人税等調整額	△596
法人税等合計	1,521
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△585,598
少数株主損失(△)	△28,064
四半期純損失(△)	△557,533



(四半期連結包括利益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	当第2四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純損失 (△)	△585,598
四半期包括利益	△585,598
(内訳)	
親会社株主に係る四半期包括利益	△557,533
少数株主に係る四半期包括利益	△28,064

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

	当第2四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	
税金等調整前四半期純損失(△)	△584,077
減価償却費	39,795
のれん償却額	12,170
受取利息	△217
支払利息	72
株式交付費	1,130
固定資産除却損	1,697
売上債権の増減額(△は増加)	15,959
たな卸資産の増減額(△は増加)	△11,182
未収消費税等の増減額(△は増加)	19,752
仕入債務の増減額(△は減少)	11,673
未払金の増減額(△は減少)	△1,746
未払費用の増減額(△は減少)	5,522
未払法人税等(外形標準課税)の増減額(△は減少)	△4,360
前受金の増減額(△は減少)	△19,579
前受収益の増減額(△は減少)	12,563
預り金の増減額(△は減少)	△2,902
長期未払費用の増減額(△は減少)	1,306
長期前受収益の増減額(△は減少)	8,708
その他	△10,561
小計	△504,276
利息の受取額	557
利息の支払額	△41
法人税等の支払額	△3,335
営業活動によるキャッシュ・フロー	△507,095
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	
有形固定資産の取得による支出	△73,342
無形固定資産の取得による支出	△13,301
その他	114
投資活動によるキャッシュ・フロー	△86,530
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	
長期借入金の返済による支出	△20,812
株式の発行による収入	143,031
財務活動によるキャッシュ・フロー	122,219
現金及び現金同等物に係る換算差額	1,308
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△470,097
現金及び現金同等物の期首残高	4,349,733
現金及び現金同等物の四半期末残高	3,879,636

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。